

「社会の最先端の課題」を 投げかける「支援困難事例」 への実践的かつ高度な 支援専門書

評者◎吉澤みどり

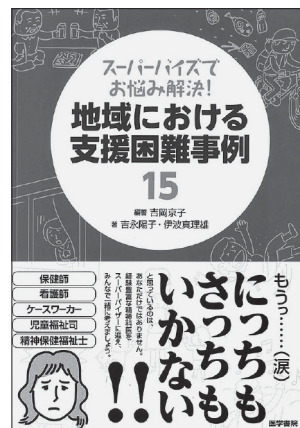
渋谷区幡ヶ谷保健相談所

スーパーバイズでお悩み解決！

地域における支援困難事例 15

吉岡京子（編著），吉永陽子／伊波真理雄（著）

本体 2400 円＋税／医学書院（Tel：03-3817-5657）



ときに私たち保健師は、家庭の中に土足で入るに等しい招かれざる客である。しかし、わずかに開いたドアに踏み入れた足を、抜いてはならない。治療中断ケースに導かれた先で、引退した町の歯科医師が白衣をまとい「保健師さんについていきなさい」とケースに論ずるなど、精神科入院に力を借りられたような経験はないだろうか。つまり、支援の答えは地域の中、“ケースとの関係性”の中にしか見い出せないのだ。

「社会の最先端の課題」を投げかける「支援困難事例」と、ケースの人生に深く関わっていく支援者たちへの畏敬の念を礎とし、そこに光を当て、「少しでも現場の保健師たちの肩の荷や心が軽くなるような本を」とつくられた本書は、地域における“支援の知恵”が凝縮された高度な専門書である。

前半は、「支援者が対象者を支援するうえで大変な困難を感じる事例」として「高齢者」「子ども」「知的障害」「依存嗜癖」「精神疾患」の関連分野から 15 事例が紹介され、保健師など「支援者」のアセスメントや見解に対し、精神科医である「スーパーバイザー」が助言するという一話完結物語だ。その助言は、医学的・心理社会的側面の見立てからケースワークまで、平易でありながら深く丁寧な解説となっている。また、関連する重要な知識「7つの COLUMN」が織り込まれ、その中でもとくに「現段階以上に健康被害が拡大・悪化することを予防する一ハームリダクション」は、児童虐待など命の問題に直面する際に参照すべき重要な理論である。

そして後半は、「支援困難」の要因・共通点・特

徴が分析され、支援困難事例の発生予防の仕組みづくりも示されている。事例への「助言」をまとめたアセスメントのポイントを示す「付録」も、簡潔に整理され実用的だ。

前半で示される 15 の物語は読みやすいタッチで描かれているが、緻密に構造化され、全事例を通して、今現場で困っていること、知っておくべきことが網羅されている。とくに際立つ点は以下の 2 点である。

1 点は、「地区担当保健師の役割」「支援者への暴力に備える」「感情労働とバーンアウト」など、われわれの限界を自覚する必要性、支援者を支援する「間接的な支援」や「ネットワーキング機能」といった、個別支援を超えたポピュレーションアプローチの重要性についても展開されている点である。

2 点目は、本書の事例には障害者相談支援センターの精神保健福祉士、福祉事務所の事務職など、他機関、他職種が登場しており、彼らが保健師をどのように捉え、保健師に何を期待するのかわかる機会ともなる点である。地域の中で“保健師はどのような存在であるべきか”を、保健師自身が振り返る必要性があると説いている。

本書は、新人期の保健師にとっては事典的な活用もできるであろう。「苦情対応」「ゴミ屋敷」「仮の見立て」など 115 項目の「牽引」から興味のある箇所を引き、本文に戻るのもよい。中堅・ベテラン保健師には、プリセプターとして助言者として人材育成の手引きとして活用できる。心配で眠れぬほどの思いに本書は寄り添い、一歩前へ踏み出すガイドとなるであろう。